



鳥類標識調査（バンディング）という調査があります。野鳥を一度捕獲し、番号の入った足環を装着することで、野鳥の移動や寿命を調べるというものです。ただ野鳥の捕獲は法律では禁じられているので、実施には山階鳥類研究所の認定を受ける必要があり、誰でも勝手にできるというわけではありません。香川県では筆者（岩田）がライセンスを持ち、細々と調査しています。そこで今回は、ちょっと前の記録ですが、バンディングによって確認した野鳥を紹介します。

### 【エゾセンニュウの捕獲と識別】

岩田篤志

調査年月日：2000年10月16日（捕獲時間 6：45頃）

調査場所：高松市峰山

峰山での調査はこの年が初めてで、10月2日から10月16日までの間に、5日間実施した。期間中に捕獲したのは11種64羽。最も多かったのはメジロ(47羽)であり、小数ながらメボソムシクイ・クログミも捕獲した。この調査では短期間ながら、峰山が野鳥の渡りにとって重要な地であることを確認した。

さてこの日の早朝、見慣れない個体を捕獲した。これがエゾセンニュウである。識別の主な根拠は次のとおり(センニュウ類と識別した過程は省略)。

- 全体に褐色味が強く、背に縦斑はない。
- 尾羽に磨耗が無く、先端に灰白色斑はない。
- 最長尾羽と最短尾羽の差が22mm。

シマセンニュウだと、背には不明瞭な縦斑があり、尾羽は先端が磨耗していなければ明瞭な灰白色斑がある。また、最長尾羽と最短尾羽の差は、「日本の鳥類と其生態」(※1)のデータでは、エゾセンニュウは28~32mm、シマセンニュウは15~17mmとなっている。本個体は頭骨の骨化が進んでいない幼鳥であったため、エゾセンニュウ幼鳥の尾羽がまだ伸びきっていないと考えれば妥当である。しかしシマセンニュウ幼鳥の、尾羽だけが特に長い個体(しかも白斑が無い)と考えるのは無理がある。

なお、筆者はバンディングを学ぶため、鳥取県の米子水鳥公園へ通ったのだが、そこでは特にシマセンニュウが多数捕獲される。そのためシマセンニュウは香川県人としては相当数見ており、その上での識別である事を付記しておきたい。

それでは、まとめを…

### エゾセンニュウ *Locustella fasciolata*

エゾセンニュウは北海道で繁殖する夏鳥であり、亜種エゾセンニュウ *L.fannicola* が渡来する(※2)。本州以南は春秋に通過するが、藪などへの潜行性が強く、観察例は少ない。香川県では、1974.10.12に高松市小田池での記録(※3)があるが、詳細は不明である。また 1991.9.22 に三豊干拓での探鳥会で2羽の記録(※4)があるが、こちらも詳細な記載はなく、また当日のリーダーの方も見ておらず、話題としても記憶に無いとのことである。この観察個体は、時期や環境から、シマセンニュウ(特に尾羽の磨耗した幼鳥など)の誤認である可能性も高い。なお「香川県のとりとけもの」(※5)にも種名のみ記載されているが、これは上記の2つの記録を根拠にしていると思われる。その他は、確認できる範囲では記載はない。

よって写真を伴う確実な記録としては、上記の 2000.10.16 の記録が唯一と言えよう。しかしながら、本種は通過はしていると思われることから、今後も観察(または落鳥個体発見)の可能性も少なくないと思われる。



※1 「日本の鳥類と其生態 第二巻」山階芳麿、1941  
 3 「四国の野鳥誌」石原保、1982  
 5 「香川県のとりとけもの」香川県、1993

2 「日本鳥類目録 第6版」日本鳥学会、2000  
 4 「かいつぶり」日本野鳥の会香川県支部、1991. 10